

解答例

1. 東洋と西洋の違いをあなたの体験を通して身近な例を挙げて考えてみよう

アメリカに住んでいたときには、自分と友人の意見が食い違った際にはどちらが正しい意見なのか討論になることが多かった。しかし、日本に帰ってくると、意見が食い違っても相手が自分の意見を考え方のひとつとして受け入れることが多く、討論になることはあまり無かった。

2. 現代の社会では西洋で生まれた考え方が多く利用されています。どのようなものがあるだろうか。また、どうして西洋の考え方は世界中に広まったのだろうか。例を挙げて具体的に考えてみよう。

例えば、現在の日本を含む多くの国で使われている法律や政府などのシステムは西洋の考え方を基本としています。また、民主主義は近代的なものではありますが、これも西洋で生まれた啓蒙思想を前提としています。これは西洋が拡大する文明であるからですが、具体的には、植民地化やキリスト教の布教活動などで、積極的に海外に関わっていたことで海外にもその考え方が浸透していったのだと考えられます。

3. 東洋から世界中に広まったものはどのようなものがあるだろうか。例を挙げて具体的に考えてみよう。

西洋で親しまれている紅茶は、東洋の緑茶や烏龍茶などと同じ茶葉を使って作られており、もともとは東洋から輸入したものです。また、その紅茶を飲むために必要なティーカップは陶磁器で作られていることが多く、これは別名「チャイナ」と呼ばれることからわかるように、東洋で生まれたものです。加えて、高品質な生地素材として用いられるシルクも、もともとは東洋で生まれたものです。

4. このように、東洋と西洋には様々な違いがありますが、この違いを理解したうえで東洋と西洋は今後どのような関係を築くべきだと思いますか？

東洋と西洋の違いは決して優劣によって表されるものではありません。それぞれ違った良さをもっており、まさに一長一短です。私たちは、どちらかに偏ることなく、双方のバランスがとられた社会が現代の私たちが目指すべき社会であると考えます。他の文化に触れ合うとき、そこには確実に違いが存在します。その違いを理解し、また、自分も相手に理解してもらうことで、相互の信頼関係や協力関係に繋がっていくでしょう。（「私たちの見解」参照）